

金澤北ロータリークラブ



1994年6月9日

第513号

例会日：木曜日 12:30～13:30
 例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭
 TEL<0762>52-2271 FAX52-2273
 事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所
 TEL<0762>22-2525 FAX24-2882
 会長：飯野 健志 幹事：渡邊 聡
 情報委員長：広岡 治樹 会員82名

「人面石——人類とはどんな生物なのか」

洋画家 北村 孝次氏



酸素を吸い白土を必要としない生物、これが人類なのです。

ズッと以前地球を支配していた恐竜や翼竜は白土なしには生きていけなかった。

「おいネ、白土とはいったい何ゾヤ」

アジアプレートが分散統合をくり返して現在は統合期で日本列島へ沈みこんでおると云われています。

地球の地殻には磁気網がくまなくはりめぐらされていて、ハンマーショックでそれが乱れ、山ナミとなってエネルギーが日本列島におしよせてきます。

だからあちこちで亀裂が生じてヒビがいき、これをほっておくとマグマが吹き出してどうしようもなくなる。……が、統合分散をくり返すプレートとは別に『バンソウコウ』のような役目をしてくれるプレートが赤道直下のフィリピン海プレートにあります。

私はこれをヒトデ型プレート基地と呼んでおります。

ヒトデ型ショックは、こりゃめずらしい古くなった熱水塔で、やがて珊瑚がつき成長して顔を出し、それに雨があたると中から二酸化炭素が逃げ出して残りに白ねん土ができる……。これが白土なんです。

たび重なる噴火で白土そのものが火山灰におおわれて、分泌する硫酸で食物を溶解して白土に含まれる石灰分で中和し養分として吸収していた恐竜翼竜たちは絶滅した。

以後神様が白土を食べなくてもよい人類に王座をお譲り下さった……と、私はそんなふうに考えています。

身近かなアトリエの回りにも白土で生きていた恐竜翼竜の卵化石がゴロゴロしています。それどころか熱雲噴火で宇宙遊泳もしています。我々人間は卵化石の中で生活していると云っても過言ではありません。

——金沢北RC例会講話より—— (文責 二塚 長生)

国際ロータリー第2610地区 地区協議会 BE A FRIEND 友達になろう

副幹事 奥田 久雄

5月8日(日)10:00より 晴天のもと万葉の里、高岡法科大学を会場に高岡万葉ロータリークラブのホストで国際ロータリー第2610地区1994~1995年度のための地区協議会が開催されました。

大木隆地区インカミングガバナーから次年度RI会長ビル・ハントレのメッセージとテーマの発表がありこのRIテーマに従い第2610地区の基本方針が決定されました。私共もインカミングガバナーの所信、各部会での研修内容を深くかみしめて具体的に向をなすべきかと考え、皆様方の御協力によって事業をすすめたいと思います。

BE A FRIEND 友達になろう

地元や職場で友達になろう

- ・身をもって愛を実践することによって
- ・家族と同僚との関係をより強化することによって
- ・家族を亡くした人や孤独な人を慰めることによって
- ・あなたの思いやりを地域全体に広げることによって

地域の人々と友達になろう

- ・地域の本当のニーズを見つけることによって
- ・プログラムを遂行し、共通の関心事において力を発揮することによって
- ・帰属意識を養い、結束の強化を援助することによって

遠く離れた人々と友達になろう

- ・まだ出会ったことのない人々に友達として手を差し伸べることによって
- ・ロータリー財団を支援することによって
- ・世界理解のために地域の関心事を世界の関心事にまで広げることによって
- ・地域の努力を結集し、世界社会奉仕における世界的目標を達成することによって

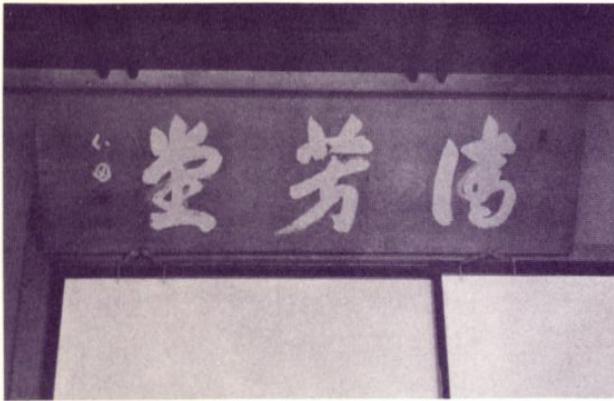
第2610地区の基本方針

1. 四大奉仕の実のある業績の推進。
2. 友達になることにより、社会への思いやりの輪を広げよう！
3. 四つのテストで行動しよう。



私の職業奉仕

山本幸雄



私の店には自慢できるものは何ありませんが、清芳堂の看板が2枚あります。1枚は武者小路実篤で亡くなられる2年前揮毫していただきました。もう1枚は国泰寺管長稲葉心田老師です縁あって何度かお目にかかり国泰寺へ朝六時に出かけお願いしましたら儂は看板は今迄一枚だけ書いたが親友の利岡光仙のみで書かんが君は特別に書いてやろうといわれ清芳堂を書いていただきました。現在は2枚とも篆刻家に板彫りして店に掛けてあります。昨年

の仕事内容を紹介しますと2月に涅槃の掛軸の修復を2年越しして終わりました。今迄に巨大な涅槃は三幅行いましたが今回は巾が広く紙が数百枚の断ぎ断ぎで毎回新発見があります。4月は横西霞亭先生の個展を全部させてもらい、6月は石川の伝統工芸、3月と8月は日本伝統工芸展でおかげさまで両方とも石川県初のその他の工芸の入選をはたし、9月坂口玉鳳先生の個展、10月敬覚寺の大壁画の修復を半年掛りで終え、息つく暇がない一年でした。

若い頃より我職業で社会に奉仕する気持ちはあり仲間をさそい整肢学園陽風園梅光会等と労働奉仕を行っていましたが、山科杏亭という人が居まして、この方は日本画家であり文化財審議委員長でもある人でした代に栗崎の八幡神社に県下最大の絵馬額が破れ破損が激しく修復してほしいといわれ仲間8人で仕事を6時に切り上げ毎晩約1ヶ月神社通いを行い修復を現場で行いました。額は13mと巨大で木谷家が松波景栄に書かせた力作で市指定文化財になっています。奉仕を終えた時は安堵で3日間寝た事を覚えています。その後浅野神社、椿原神社、金沢神社と絵馬額等の修復を研究を兼ねて無料奉仕でさせていただきました。

氏子の方が破れて垂れ下った絵をセロテープで貼ろうかと思っていたところ間一発で我々が先に修理した事も、縁があったことと思っております。我身の体力を考え自分の仕事を日々全とうする事が今の私の職業奉仕と思っております。



長谷川塑人会員画

